

# 内科・糖尿病内科

担当医師 井口昭久教授

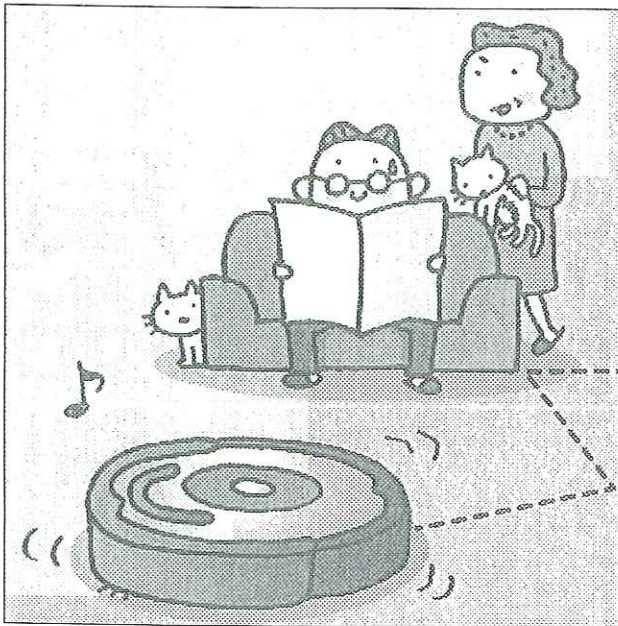
の記事が掲載されました。

11月14日 朝日新聞 朝刊

(毎月1回掲載中)

## 老年学

## 進歩は男性に不利?



文明の進歩とともに人間の寿命は延びてきた。不思議なことに、どこの国でも女性の寿命は男性よりも長い。理由には多くの仮説がある。その中で「文明の進歩が女性に有利に働いた」という説がある。自動車の発明や電話、洗濯機などは女性の寿命を延長させたという説である。しかし便利な機械が出現すると、社会の仕組みに変化が生まれ、思いもなかった問題が出てくるのが常である。そのストレスをまともに受けた男性の寿

愛知淑徳大学教授  
医師

井口 昭久

命の伸びは、女性よりも少なかったというのである。

定年退職した山本さんは自動掃除機を買った。円盤状のコンピュター搭載の優れた機器である。スイッチを押すと音楽が鳴って、回りながらゴミを集める。床は隅々まできれいになる。終わると充電を自分に場所へ帰る。

床の隅々のごみを思い込めて拾うのが掃除であると思っている山本さんの妻は、この機械はそれほど好きではない。その妻からは「あなたのように」と言われる。心がこもっていないし、与えられた仕事しかない。自分のことしか考えないからだという。確かに段差があれば止まるし、危ない時には停止する。妻は、「あの子ばかりに掃除をさせて。体を動かさないで、早く死んじゃうよ」とも愚痴る。

このごろの文明の進歩は、男性の寿命の延長には不利益に働くのかもしれない。